令和４年度第１回厚岸町総合教育会議　議事録

１　日　時　令和５年３月22日（水曜日）15時00分～16時05分

２　場　所　厚岸町役場庁舎・３階委員会室

３　出席者

（構成員）

町　　長	若狭　　靖
教 育 長	滝川　敦善
教育委員	田辺　正保
教育委員	濱　　秀利
教育委員	森脇　直美
教育委員	成澤　幸恵

（事務局）

総務課

課　　長	布施　英治
総務係長	薩田　翔悟

（教育委員会）

管理課長	田﨑　清克
管理課長補佐	車塚　　洋
給食センター所長	小池　裕子
指導室長	廣瀬　　巧
スポーツ課長	髙橋　俊彦

（水産農政課）

課　　長	髙橋　政一
水産農政課長補佐	石崎　辰也

４　傍聴者　なし

５　内　容

〇司会（総務課長）

私は、事務局を担当しております、総務課の布施と申します。よろしくお願いします。

ただいまから、令和４年度第１回厚岸町総合教育会議を開催いたします。

初めに、若狭町長から御挨拶を申し上げます。

〇町長

皆さん、こんにちは。未だに収まらないコロナ禍の中ではありますが、皆様には日頃から厚岸町教育行政の推進に対しまして大変お世話になっており、厚くお礼を申し上げる次第でございます。

特に本日は、今年度第１回目の総合教育会議でありますが、滝川教育長が新しく就任してからの初めての総合教育会議でございます。どうか今後ともよろしくお願いを申し上げる次第でございます。

教育長を始め、各委員の皆様には日頃から厚岸町教育行政の推進に対しまして、御尽力をいただきまして心から感謝を申し上げます。

さて、ご承知のとおり総合教育会議につきましては、地方教育行政の組織及び運営に関する法律に基づき、教育大綱の策定に関する協議や教育に関する重点施策を講ずるための協議の場として、地方公共団体の長が設置するものとなっております。これまでの間、総合教育会議で議論させていただいておりますとおり、教育は厚岸町のまちづくりの原点であるという認識の下、これからの時代を担う町内の子どもたちが心身共に健やかに成長できるよう安全で安心な教育環境を整備し、提供していくことが重要であると考えております。そのような考えの中で、令和５年度の教育予算につきましては、教育委員会と十分に意思疎通を図り、地域の教育課題等を踏まえ、予算措置をいたしたところであり、引き続き、教育環境の充実に努めて参りたいと考えております。

本日の会議では、町内唯一の高校であります、北海道厚岸翔洋高等学校の現状のほか、教育委員会の支援状況と町長部局の支援状況について、教育委員会及び町長部局の担当者からそれぞれ説明をいただくこととしております。その上で委員の皆さんとの意見交換をさせていただきたいと考えております。どうか忌憚のない意見をよろしくお願い申し上げまして冒頭の挨拶とさせていただきます。

〇司会（総務課長）

本日の会議の進行につきましては、厚岸町総合教育会議設置要綱に基づき、町長が議長となり進めていただきます。よろしくお願いいたします。

〇議長（町長）

それでは、既に皆さんのお手元には会議次第がありますので、次第に基づきまして議事を進行していただきますので、よろしくお願いを申し上げます。

厚岸翔洋高等学校の現状と取組等について、まず提案をいただきながら教育委員会から説明をいただきたいと存じます。

〇教委委員会（管理課長補佐）

■３　説明・協議事項「ア　厚岸翔洋高校の現状と取組についてのうち、括弧１の翔洋高校の現状及び括弧２の教育委員会の支援状況」

配付資料により内容説明

○高橋水産農政課長

■３　説明・協議事項「ア　厚岸翔洋高校の現状と取組についてのうち、括弧３の町長部局の支援状況」

配付資料により内容説明

○議長（町長）

ただいま、教育委員会並びに町長部局から説明がありましたけれども、各委員の皆様から質問等がありましたらお伺いいたします。

○田辺委員

募集人員に対して入校を希望する子ども達の数が少ないというのは、非常に懸念される意味合いがあるのかなと思っています。

また、今、色々と説明をいただいたとおり、厚岸町の水産業、いわゆる第一次産業を支えていく人材を育成するという意味では、地元である翔洋高等学校の位置付けも非常に重要であると改めて説明を聞いて感じたところであります。

先般、真龍中学校の卒業式がありまして、厚岸翔洋高等学校への入校希望者が何名であるかお聞きしましたところ、12名程度ということでありました。残念ながら、厚岸中学校の方が少ない状況であるとのことでありました。この生徒達はもちろんですけれども、保護者に対しても地元高校の魅力を発信して理解していただければならないものと思います。

一方で、真龍中学校の先生がその時申していたのですが、釧路市の学校に通学するとなると通学時間でハンディを抱えることになるんだというようなお話もしていたところであります。やはり、通学時間に往復２時間程度かかってしまう形になると、クラブ活動や勉強のほか様々な学校生活に制約があるのではないかとのお話しもされていました。可能であるならば地元の学校に通った方が良いのではないかということもおっしゃっていました。

さらには、子ども達の選択肢を広げる意味でも、生徒指導等を通じて色々な情報を生徒達に知らせていくことも重要なことであるのではないかと感じたところであります。

また、先般ＳＴＶ札幌テレビ放送局で、北海道の水産高校と料理研究家の星澤先生とのコラボ企画で小樽水産高等学校の生徒達が「鱈のつみれの缶詰」を製品化して販売されたことが紹介されておりました。その一部で厚岸翔洋高等学校も取り上げられておりましたが、メディアを活用しながら情報を発信していくことも非常に関心を持っていただけるのではないかと感じたところであります。

○議長（町長）

ありがとうございました。次に、濱委員さん。

○濱委員

翔洋高等学校の取組や内容的には、どのような活動をしているか分かってきたんですけれども、「マイスターハイスクール事業」をやっているということは、私自身は初めて聞くような次第で、このような素晴らしい活動をしているのに、なぜ町民に伝わってこないのかが残念なことであると感じました。このような活動を通じて厚岸翔洋高等学校の魅力が伝わるような形で、同校でも町民に情報を発信していく必要があるだろうし、町としても同校の魅力が伝わるように情報を発信していかなければならないものであると感じたところであります。

また、厚岸翔洋高等学校の現状でありますが、最初に説明があったとおり、普通科と海洋資源科それぞれ募集人員40人に対して、令和５年度の入学者は両学科で25人ということでありました。厚岸町の生徒数も減少している反面、ほとんどの生徒が翔洋高等学校に進学していない状況であります。このような状況を考えたときに、厚岸町としてどのような支援策を講じたら、少しでも厚岸翔洋高等学校に入ってもらえるかを考えることと、厚岸町外の生徒達をどのようにして厚岸翔洋高等学校の魅力に気付いてもらって進学してもらえるかの両方の方策を講じなければならないものと思います。

このような中で、今、教育委員会がやっている支援は、通学バスの定期購入券の助成のほか、パソコンの貸与や送迎バスなどに限られていますが、このほかにも抜本的に厚岸町の生徒達が翔洋高等学校に行く仕組みづくりができないか考えたときに、小中一貫教育の推進による義務教育学校を導入することで、高校も地元の学校を選ぶ動きも出てくるのではないかなと思いますし、これに限らず色々な方面で考えていかないと人口は減る一方で募集人員も先細りになることも考えられるため、新たな方策を考えていった方が良いのではないかと思います。

現状は、正直厳しいものと考えますが、その中で実現可能なことを再度模索した方が良いのではないかと思います。

○議長（町長）

成澤委員、御意見あればお願いします。

○成澤委員

私もお話を聞かせていただいて「マイスターハイスクール事業」というのは、今回初めて耳にしました。

今の子ども達は、漁業や水産業にそれほど興味が無いのかなということと、自分の将来として考える人はどのくらいいるのかと考えたときに、あまり多くは耳にしないという気がしています。

一方で、ＩＣＴ等を活用してデータ化する中で持続していけるような取組をしていることが周知されていくと面白みを感じる子ども達もいると思うので、非常に良いことであると思っています。

また、この事業は、令和４年度から令和６年度までの事業となっているようなんですけれども、それ以降も続けてほしいという気持ちであります。私の子ども達も小学校や中学校のときに「体験授業」を経験する中で、町の魅力について触れていたと思

いますが、自分の将来の選択肢の一つとして考えられるような環境がもっと身近になっていければ良いなと思いました。

○議長（町長）

ありがとうございます。森脇委員、いかがでしょうか。

○森脇委員

私も「マイスターハイスクール」というのを初めてお聞きして、とても素晴らしい取組であると認識しました。釧根地区の漁師さんの子ども達が厚岸町だけではなく、水産業、漁師をやっているご家庭の子ども達にこのような取組をやっているということを届けたいと思いました。これは、将来、水産業を担っていく子ども達の活動ですので、それだけ厚岸町外の関係してくるであろう子ども達に届けられるような仕組みをつくるというのが非常に大事なことであると思いました。

話は逸れますが、ネイパル厚岸では、おそらく釧路・根室管内の小学校５年生の子ども達が宿泊研修で必ず来ていると思います。１泊２日ですが厚岸町内を歩き回ったり様々な活動をしていると思います。その子ども達に町内の魅力を伝えられるということと、その子ども達も厚岸町に対して良いイメージを持って帰ってもらいたいなと思っていました。

地元の中学校の子ども達が魅力を持って来てくれるのが一番良いと思うんですけども、翔洋高等学校にも二次募集がありますがその子ども達が厚岸町に入ってこないのはなぜなのかと考えたときに理由があると思うんですよね。標茶高等学校では、デザートを作ったり色々な活動を通じて人気があると聞いていますので、翔洋高等学校も子ども達に厚岸町を選んでくれるように分かりやすく魅力あるようなまちづくりをしなければいけないと思っています。

○議長(町長)

はい。わかりました。それぞれ各委員から御意見があったと思いますが、私から、さらに詳しくお話しをさせていただきたいと思います。数字を用いて説明いたしますので、皆様方に御理解いただけるかと思います。今年の分は集計を取っていませんが、令和４年の集計の結果、厚岸町内の中学生の卒業生77人のうち進学希望者数は71人です。この内、翔洋高等学校に入学している人は17人です。約24パーセントに当たるわけでありますが、残念な結果であります。それから、令和５年の現状をお話しますと普通科が11人、海洋資源科が13人であります。しかし、これは本日現在の数字です。明日から第二次募集をいたしますので何人応募があるか分かりませんけれども、現在はそのような数字になっているという現状であります。

さらには「マイスターハイスクール」のお話しもありましたけれども、実は、私が運営委員長をやっているわけでありますが、この「マイスターハイスクール」は、文部科学省が指定をするわけでございますが、北海道には「静内高等学校」と「厚岸翔洋高等学校」の二校であります。その中で、色々な事業が進められているわけでございますが、厚岸翔洋高等学校の場合は、ようやく１年が経過したわけでございます。

三箇年という期限がありますが、今、ご指摘がありましたとおり、各委員もあまり承知されていなかったというお話もありましたので、さらに、学校に強くＰＲするようにお伝えしたいと思っております。

また、地元高校への進学が少ないという現状でありますが、その原因の一つとして、学区制が今はない状況であり、釧路管内が一体になっておりますので、翔洋高等学校だけではなく、それぞれの学校に行くことは自由になっているものですから、地元の中学校の卒業生はほとんど釧路市に行ってしまう実態にあります。それに加え、少子化という現状でもあります。残念なことに、昨年、令和４年の本町の中学校の卒業生は77人でありましたけれども、本年は53人の予定であります。少子化であり、翔洋高等学校の存続に関わる現状にあるという認識の中で、地元唯一の高校であるという中で、道立高校でありますが、厚岸町としても将来どうするのか、当然、北海道としては残念なことではありますが、生徒数が減少していく状況の中では、翔洋高等学校を廃校にするということがあり得るのではないかという事態に陥るという現在であります。

さらには、義務教育もそのような状況であると捉えております。先般、厚岸中学校から中学校便りをいただきました。開いてみましたところ、卒業生を中心にして記載されていたわけでございますが、厚岸小学校の今年の卒業生15人です。完全に少子化の時代です。真龍小学校については、これの倍はいるのではないかと思います。先ほど、濱委員からお話しがありましたとおり、これは翔洋高等学校だけではなく、厚岸の小中学校をどうするのかという議論を皆さま方にもしていかなければならない重大な課題ではなかろうかと存じます。

また、各学校には空き教室が多い状況であることと、もう一つは、厚岸中学校が竣工後45年を経過することから、校舎の改築も出てくるとなりますと、当然、町内の小学校の数も統合を含めて検討していかなければならないものと考えております。

新教育長は、白糠町では、小中学校の一元化の経験があるわけでございますので、検討事項の一つとして取り組んでもらいたいと考えております。

〇濱委員

翔洋高等学校の海洋資源科の中で調理コースが設けられたと思いますが、前例として三笠高等学校の例があり、当初は高い倍率で人気の高校になっていたので、翔洋高等学校の海洋資源科に調理コースを創設した際には、調理師免許を取得することができて人気になるのではと思っていましたが、意外とそうでもない現状でありました。三笠高等学校の場合は、近隣に人口が多い市町村も存在するので、これも大きな要因の一つなのかと思いますが、もう少し翔洋高等学校の調理コースも人気になって選択してくれる生徒がいても良いのになと思っていました。

また、高校を卒業した後、専門学校に通うと授業料も嵩むと思うので、それを考えると高校の授業料で調理師免許が取得できるので、一石二鳥ではないかと思っています。何が原因かは特定できませんが、他の高等学校の例を見るともう少し増えても良いのではないか思うのと同時に、調理コースを上手に宣伝して生徒が多く通えるようにもっていけないかなと常々思っています。

〇成澤委員

子ども達の間では、２回欠席すると単位が取得できないとか、調理コースは厳しいと聞いたことがあります。

〇森脇委員

普通の授業のほかに課題があって、部活に入るとかそういうことではなくて、ずっと勉強をしていてとても大変だと聞いている。

〇濱委員

やはり大変でなかったら調理師の免許は取れませんよね。でも、そうなると中学生の子ども達には人気がなくなってしまうのかな。

〇森脇委員

それと、中学校の段階で調理師になるというビジョンを描けないというのも一つの要因ではないかと思います。

〇濱委員

テレビを見ていたら、全国的にも調理師コースのある高校があって、テレビで取り上げられたり、道内だったら三笠高等学校で調理師コースとお菓子コースで分かれているみたいなんですけれども、人気があって入校している大半の学生が寮に入って、授業受けたりしているようです。

また、町営でお店も運営していて、土曜日と日曜日を挟んで実際に実習をやったりしていて、このような取組の中で多くの人数を集めて人気の高校があるので、厚岸町も調理師コースを創設したので､生徒数が増えるか期待していたところでありますが、そのような状況にならず残念に思っています。

〇議長（町長）

この問題について、実は、翔洋高等学校は平成21年に開校したわけでありますが、その前はご承知のとおり潮見高等学校と厚岸水産高等学校の二校があったわけでありますが、人口規模、将来の推計から二校の存続は無理だという北海道の考え方もあります。何とかならないかなという北海道からの話がありまして、町長としては二校残すようにと言わざるを得ない状況でありました。

最終的には、統合の条件として調理師コースの創設を、濱委員がおっしゃられたとおり、魅力的な翔洋高校になるんではないかという考えもあった一方、釧路市に調理専門学校があり、同校とも様々な協議を重ねて翔洋高等学校に調理師コースを設置いたしたところであります。

また、調理師免許が取得できるということで就職は100パーセントで、就職先も非常に良いところであります。学校教育の中でさらに周知してもらって調理師コースを活かしていくことが大事なことなのかなと思っています。

〇濱委員

調理師コースは、画期的で凄く良いアイデアだと思っていたので、思った人数が入らなくて非常に残念です。

また、海洋資源科の中にコースを二つ作るという考え方は、画期的な考え方でもあると思うので、もっと人気な高校になって良いはずなのに残念な気持ちです。

〇議長（町長）

翔洋高等学校のみならず、生徒数が募集人員に到達しない状況については、釧路市内も同じ状況であります。ですから、釧路市内の場合は、学級数を減らしたり様々な取組をやっているようではあります。しかしながら、厚岸町内では、先ほどお話しさせていただいたとおり、24パーセントしか地元に進学しない状況で、他はどこに行っているのかということになると、町外でも釧路市に進学している状況であります。

このため、どうか皆さんにも議論を高めていただいて、翔洋高等学校は魅力がある学校だということをＰＲしていただくと同時に、我々もそのことを大事にしながら、高校の方にも強くお話をするとともに、行政としても進学率を高めていかなければならないと考えております。

〇滝川教育長

お話を聞かせていただいて、そもそも論になってしまうんですが、高校を選ぶ選択肢として、行政がどのように支援しているかは選ぶ基準にはならないんですよね。まず子ども達が行きたいっていう学校が一つと、保護者あるいは中学校の先生がこの高校に行かせたいということ、いわゆる行きたい学校と行かせたい学校が合った時というのがだいたいの選び方ではないでしょうか。特に、子ども達が自分が行きたい、あるいは親もここだったら行かせたいという、それがどちらもアンバランスだと選ばれていかないと思います。「将来のことを考えると、ここではない方がいいよ」という親の一言で進路が変わってしまいます。このようなことを私は目の当たりにしていると、やっぱり翔洋高等学校が行きたい学校になったり、行かせたい学校になっていかないと入学希望者は減っていくだろうなと思います。今回の数字を見て私も大変驚きました。十分な教育活動がやられているのにもかかわらず、さらには、子どもの減少をさらに上回るくらい入学者が少なくなっているっていうのはやはり魅力が伝わっていないと思います。加えて、今回の「マイスターハイスクール」を見てもこんなに良い取組をしている学校はなかなかないと思います。

また、昨日、高校の校長先生とお話しする機会がありましたが、本校は漁師を育てる学校ではないんだと、海洋資源科においては水産業そのもの、あるいは海洋生物も含めて、その一部に漁師がいたり水産業があったりするということをお話されていました。漁師さんを育てる学校とイメージされてしまうこともやっぱり難しいとお話しされていました。海洋資源科では、海洋生物はさらにどんなものかということをかなり研究していたりもあるようです。そんな魅力も伝えていかないと町長がおしゃって

いたように､知らないということが子ども達が選択する幅を狭めていると感じました。
一方で、釧路市などの町外から人をどのように集めるかということも視点として大切ではないかということと、町内の子ども達については、選択肢の中に翔洋高等学校が色々な情報がある中で私は釧路に行きたいと選んでもらう。町外の子についても同じように水産に興味がある、あるいは普通科でも厚岸町に来てみたい子など、そのような選択肢をどんどん知らせていくことが必要なのかなということを昨日校長先生ともお話しさせていただきました。この魅力化について、町長部局と教育委員会が連携して十分なバックアップ体制を取れるようにやっていきたいと思います。
それから、先ほど町長から小学校、中学校が今のあり方で良いのかという問いがありました。本町の適正配置という考え方では、町内を真龍小学校と真龍中学校を含めた湖北地区と、厚岸小学校と厚岸中学校を含めた湖南地区、そして、太田小学校と太田中学校を含めた太田・片無去地区の３つに分け、各地区、１小１中という形になっておりますが、これからもっともっと児童生徒が減っていくと、小中一貫校、あるいは小中へき地校のように考えざるを得ない状況になってくるものと思われます。例えば、先ほどお話がありました、校舎の老朽化の問題で考えると、同じように２つ同じ校舎を新築するのか、あるいは１つの方が良いのではないかという物理的な要因であるとか、それから、津波対策として新たな校舎の建設位置等であったり様々なことを検討していかなければならないということと、太田地区のように児童生徒の人数が今よりも減少したときに現行のままで良いのかということも含めて、これから議論になっていくものと思います。先ほど適正化というところでは、今一応はそこで落ち着いてはいるんですけれども、これから議論の中で小中一貫校、義務教育学校、小中併置校、校舎一体型の小中一貫校等の色々な選択肢を検討して、子ども達の学びの中で一番良い環境を考えていく必要があるだろうなということで、先ほど町長から一石を投じていただいたのかなと思っております。どちらにしても、今日のお話は、校長先生にもお伝えさせていただきたいということが一点、それから、マイスターハイスクールのお話を聞いたときに、私は参加していないんですけども、是非、参加あるいは傍聴でもいいので拝見させていただきたいと思います。
また、以前、水産農政課長とお話したときに、この取組に関する発表会があった際に、絶対に中学校の生徒達や進路指導の先生にも見せるべきであるということを言われていたので、その辺の何が良いのかという部分についてお話を聞かせていただきたいと思います。

○高橋水産農政課長

私も、昨年の10月から水産農政課長を担当しており日が浅く偉そうなことは言えませんが、この２月７日に翔洋高等学校の体育館で生徒達が取り組んだ「未利用資源」の発表がありました。本当に、理路整然として、「凄いな、こんなことをやっているんだな」と目の当たりにしました。先ほど、教育委員さんの方から厚岸町にいても一体この高校で「マイスターハイスクール」なんて取組やってたのなんてお話がありましたが、僕らもそのお話を聞いて反省しています。さらにピーアールしていく必要があることを実感しました。教育委員さんにもお話を聞いていただきたいですし、中学

校の進路指導の先生にも聞いていただきたいと思います。どうすれば翔洋高等学校、進路指導の立場から薦めていくのかという部分を考えたときに、現実問題として熱がこもっていないんではないかなと思っております。ですから、進路指導の先生にも生徒達の発表を実際に見たり聞いたりしていただくと感覚が変わるのではないかと思います。

また、教育長ともお話をさせていただいて、道教委の高校教育科の方にもお話しを持ちかけさせていただいておりまして、道教委の方も前向きに捉えていただいて、年度一年間経過してしまいますが、今後の二年間の授業実施に当たっては地元の教育委員会を巻きこんでやっていければ授業も充実するのではないかということもお話をされていました。

さらには、今後、寮の新築・改築も進んでおりますし、北海道の方も翔洋高等学校については、肝煎りで校舎の整備等をやっていただいておりますので、地元がこれに応えることによって、翔洋高等学校がまだまだ発展していく需要が十分可能性としてはあるのではないかと思います。加えて、外へのピーアールももっと積極的にやることによって寮もきれいで、かつ、充実しているということと、様々な研究もできる学校であるということを広く知らしめることによって、まだまだ翔洋高等学校が良い学校になっていくと思っていますので、次年度に期待していただくとともに、発表等の機会には、是非、時間が許せば足を運んでいただいて実際に生徒達の成果を聞いていただいてもらえればより一層良いものになっていくと考えております。私たちの方もなお一層の周知、ピーアールをしていきたいと思っておりますので、今後ともご協力を賜ればと思っておりますので、よろしくお願いします。

○議長（町長）

はい、それとですね、翔洋高等学校については、別にお話しさせていただきたいと思います。やはり保護者から見ると学力程度もおそらく評価されているのではなかろうかと思います。一つの進学に当たりまして、やはりどうしても翔洋高等学校よりも釧路の学校の方が学力が高いのではないかというような意識もあるようであります。

また、実際の話ですが、ここ近年は受ける生徒も少ないわけでありますが、本町の役場職員の採用試験というものがあるわけでございます。以前、同校に三田村校長先生がおりまして、採用試験を受けて合格させるということと、成績は生徒本人に頑張らせるからという話の中で、実は厚岸町の役場職員の試験は、釧路管内町村７町村あるわけでありますが、一次試験については統一試験として行われております。５年前ではありますが、同校出身で優秀な成績で合格された者もいるわけでありますので、学力程度は大きくは差はないと思っております。学校における教育がいかに重要であるか、その点、改めて私は思ったわけであります。

一方で、近年は役場を受けても一次試験が受からないという傾向もあるようですから､高校においても生徒が頑張れるような教育をしていただきたいと思っております。どうかそういう意味において、学力については、釧路の学校と差はないと思っていますので、魅力ある翔洋高等学校となるように、私もこれからピーアールしていきたいということと、位置付けが道立高等学校になるわけでありますので、皆様方には直接

関係はありませんけれども、厚岸町の教育現場として、唯一の高等学校であるという認識の中でよろしく願いを申し上げたい考えておりますのでよろしくお願いします。

○田辺委員

町長がおっしゃるとおり、学力に応じた習熟別授業をやっていたりもありますが、一般の保護者、あるいは一般の町民は理解していないということがありますし、このような活動についても高等学校独自でピーアールしているとは思うんですけれども、これから入学しようとする子ども達を対象にピーアールしたりすることと、一般町民に対しても様々な取組を行っているということを目に触れさせたり、見聞きする機会が少しでもあった方が良いのかなと思います。そのような取組を重ねることで、例えば、厚岸町の広報紙の中に翔洋高等学校のコーナーを設けながら、日常の活動をお知らせしたりするなど、継続した取組を通じて広くお知らせすること、さらには、広報誌だけではなく教育委員会からのお知らせの中でも良いので、広く知らしめる取組については、早めに取り組んでいけることではないのかなと思っておりますので、検討いただきたいと思います。

○森脇委員

資料の３ページなんですけども、学習内容の特色が記載されていますが、どういった授業あるいは科目があるのかとかは町の人は全然知らないことなので、情報としてこのような授業を行っているということや、取得可能な資格など、町民の人にも興味になるような話題を年に１回でも広報誌への掲載を通じてピーアールしていくことがとても大切であると思っています。

○濱委員

私も今、お話を聞いて思ったのは、厚岸翔洋高等学校は漁師育成学校ではないと校長先生がおっしゃていたということをお聞きして、私自身も勝手に漁師育成高校だと思い込んでいました。これは結構なポイントで、漁師の家庭ではない一般の家庭の子ども達は、海洋資源科に行かないっていう思い込みが少なからずあると思います。現在、取組を進めているマイスターハイスクール事業あるいは海洋資源の研究についても、漁師の家庭以外の一般の家庭の子ども達にも興味のある子はいると思うので、興味を持ってもらえるような宣伝をすることで、何となくではありますがイメージ的に漁師育成学校っていう部分を払拭できるような気がしますので、違う宣伝方法を検討することも必要ではないかと思います。

○議長（町長）

そのほか何かご意見はありますか。

○滝川教育長

今、厳しい数字で倍率が0.3という数字が出ました。新聞をご覧になったら分かる

ように全ての学校が出ています。釧路管内においても去年0.2倍だったのが0.6倍になっている学校もあります。そこには何かが工夫されていると思いますので、人数が減少しているからもう駄目なんだと言うのではなくて、それを乗り越えて倍率を上げている学校もあります。そういう所も私がお聞きして、何をてこ入れしたのか、あるいは、魅力という部分で何を発信したのか、三笠高等学校は、正しく一気に復活した学校であると思います。普通科高校であると難しい部分もありますが、翔洋高等学校は魅力的な要素を持った高校なので、他の学校の例も見ながらこの倍率が伸びていった学校の取組も検証していきたいと考えております。

〇議長（町長）

今日の課題については、以上でよろしいでしょうか。

それでは、本日の会議につきましては以上をもって終了とさせていただきます。ありがとうございました。

〇司会（総務課長）

以上をもちまして、令和４年度第１回の厚岸町総合教育会議を終了いたします。

なお、次回の総合教育会議は、協議及び事務の調整が必要となった場合に、開会することといたします。